みんなのひろば

身近な話題や、部落での催し物などがありましたら広報係（２－1115）までお知らせください。
掲載された写真をほしい方は、広報係まで。

風船がとりもつ縁
訪れて横芝町を満喫

夢と希望を託した風船が、二百キロをも旅をしてポトッと落下。それを拾った方と小学生の間で、文通が交されている話題を過去二回にわたって紹介しましたが、その風船を飛ばした甲府市春日小学校の子供達が、拾い主の斉藤利吉さんをたずねて当町を訪れました。

小宮山学君（二年生）ほか五名の子どもたちは、風船の落下地横芝町をひと目見たいと、ＰＴＡ会長さんや両親に引率されて、八月十四日に当町を訪れたものです。

夢にまでみた横芝町役場庁舎前での記念撮影

みなさんは、斉藤さんから、屋形海岸や海の子どもの国、学校などの案内、また、宿泊の世話など、身にあまるほどの親切をいただいたと大変に感激していました。

帰路に立つ日も役場を訪れて、初めて目にした九十九里浜の雄大さや、子どもの国での楽しいひとときや、豊富な海の幸を腹いっぱいに味わった宿での思い出話などを、楽しく報告していました。

海に縁遠いみなさんにとっては、思い出に残る意義深い三日間であったと思われます。

町長以下町をあげての歓迎ぶりにすっかり恐縮されたようですが、文通相互、訪問と、一つの風船がもたらした心あたたまる明るいエピソードであります。

横芝俳壇

横芝句会八月例会

土屋　栗水

糸柳病葉こぼしつつ伸びし
成田　憐子

萩盛る離林の草屋廃るまま
宇井　芝童

老姉妹生家で出合ひの梅酒かな
藤代　ゆう

若きらの折鶴捧ぐ原爆忌
津田　若菜

野萩咲き松はおおかた枯れにけり
向後　雅子

みそ萩の飾りし盆も過去となり
鈴木　南知

萩散るやそこだけ風のありにけり
海保恵保子

今少し縄をゆるやかこぼれ萩
海保　きみ

鬼百合の色に酔ひたる黒揚羽
鈴木　要

うちわ風静かに運ぶ子の寝息
山崎　峰水

梅酒や父頑なに老ひませり
住母家千夫

老ク会梅酒の寄贈ありにけり
石毛　石汀

掲げある聖者の言葉法師蟬
木下石果子

地を摺って動く柴折戸萩咲ける
五木田烟花

人知れず一人の愉悦梅焼酎
奥山　萌古

丈短かこぼれ育ちの鶏頭は
佐瀬としお

案内の僧衣は白し萩の花
佐々木久子

泳ぎ子の胸に下げたる守り札
安井ゆづる

こぼれてはこぼれては萩盛りなる

横芝の碑

俳諧紀行の碑

（一一六）

このシリーズで、中台に建っている〝乳牛ヨーゲン号〟の碑をご紹介したことがあります。そして「大正の始め、当時の大総村中台出身の石橋邦蔵さんという人が中心になり、当時の二川村（現在旧千代田村と合併して芝山町となっていますが、仁王尊と呼ばれている観音教寺の所在地）と共同で酪農組合を作り、特に乳牛の振興に尽力された、いわば広域協同組合の草分けである」そんな説明を申し上げてあったと思います。ところが、二川村の観音教寺周辺の方がたと、大総村中台地域の方がたとの親交は、こうした農家経営の面だけではなく、風流墨妙の道でも深い交流が重ねられていたようです。

中台の円福寺については何度かご紹介しておりますが、この寺の境内の山門をくぐったすぐ左手の、つつじの大株の陰に隠れるように一基の句碑が建っています。

芝山観音教寺を中心にして、古くから俳諧を嗜む人々の集りがありました。その仲間には中台地区の人々もたくさん加わっておられ、